

TARO Special interview

SUITA 80th Showcase

Hakase



葉加瀬 太郎さん

昭和43年(1968年)1月、大阪府生まれ。平成2年(1990年)クライズラー・アンド・カンパニー KRYZLER&COMPANYのヴァイオリニストとしてデビュー。解散後ソロ活動を開始し、レーベルHATSを設立。テレビ番組「情熱大陸」やNHK連続テレビ小説のテーマ曲など数々の楽曲を生み出すほか、現在も多数の公演活動を行う。



音楽と出会い、
情熱を注ぐ。
そのすべては
吹田から。

デビュー以来、演奏、作曲にと日本の音楽界を牽引してきた葉加瀬太郎さんは、幼少時代から16歳までを吹田で過ごしました。そんなご縁もあり、吹田市では市制施行80周年を記念し、吹田市をイメージした楽曲を提供いただくことに。曲に込められた思いや吹田での思い出などを伺いました。

Mr. Taro Hakase is a violinist who takes on an active role both at home and abroad. Suita City is honored to have Mr. Hakase, who spent his childhood up until the age of 16 here in the city, provide us a musical piece in commemoration of the 80th anniversary of the establishment of Suita's municipal system. We asked Mr. Hakase about the feelings he poured into this piece and to share with us some of his recollections of the times in Suita.



千里界わいの公園は自然の宝庫
少年時代、外遊びを満喫できた

3歳から津雲台の公園住宅に住んでいました。6畳と4畳半の2DK。小学4年生で青山台に引っ越したのですが、同じ千里ニュータウンの公園で暮らしていました。つまり、根っからの団地っ子です。

当時の団地暮らしは、文化的で最先端をいくおしゃれなイメージがあり、多くの人にとって憧れの的でした。一方で昔ながらの濃密な近所づきあいが残っていたのも、あのころの団地。僕がヴァイオリンを弾かない日に、近所の人から「今日は、練習しないの?」と言われたことも。今では考えられませんが、夏は窓を開けっ放しにして弾いていましたからね。

付近には、千里南公園や津雲公園など子供が遊ぶのに最適な公園があり、自然が豊かでした。ザリガニを釣ったりカナブンを追いかけてたり、いろいろな楽しみがありました。竹林も随分残っていてタケノコもとれました。

緑が多いといえば、休日には家族で万博記念公園に出かけました。当時どこの家庭にもよくあった赤や青、黄の配色のカラフルなレジャーシートを持って行き、お弁当を食べてライブを開催したときは、感慨深



小学生の時に出演した演奏会

青山台小学校での運動会

かったです。このライブは平成30年(2018年)まで続き、入場の際にはピクニック感覚で楽しんでいただけようとレジャーシートをお配りしていました。個人的なこだわりなんですけどね(笑)。

緑の向こうを見れば太陽の塔。団地の窓からも毎日見えていたあのインパクト大の芸術をつくった岡本太郎さんは、ずっと僕の憧れの人です。大人になるのって面白そうだな、ユニークな仕事ができるんだなと思わせてくれました。東京の自宅のスタジオには太陽の塔のオブジェを飾っていて、日々眺めているんですよ。

ヴァイオリンの練習に励む毎日
原動力となったのは…

ヴァイオリンを始めたのは、4歳のころ。ヴァイオリンを使った情操教育を行う教室が津雲台の公民館で開かれていて、週1回通っていました。当時、戦前・戦後の厳しい時代を過ごしてきた親が自分たちの夢を託すかのように、子供に習い

事をいっぱいさせていて、僕も周りの同級生たちと同じように絵画、そろばん、剣道、サッカーなどいろいろしましたよ。

そんな中で本格的にヴァイオリンと向き合い出したのは、10歳のときです。数々の著名なヴァイオリニストを育てられた東儀祐一先生に見てもらったよう勧められたのがきっかけで、それから隔週日曜日に先生のところへ通いました。さらに他の週は先生のお弟子さんに見てもらって、日曜日はすべてレッスン。家ではさすがに夜遅くまでは弾けないので、学校から帰ってから夜9時までが練習時間。加えて毎朝学校へ行くまでに30分弾いて…と、本当によく練習しましたね。

実はそこまで夢中になれたのには、ちょっとした理由もありまして…。同じころ、青山台小学校の同級生でかわいい女の子がいて、彼女もヴァイオリンを習っていました。同じ団地の1棟違いということもあり、急接近。仲良くなったある日お家に伺うと、僕よりもはるかに難しい曲を弾きこなしていたんです。恋心を抱いていた僕としては、かなりショックでした。これはもっと練習してうまくならなければいかんと(笑)。動機は少々不純ですが、おかげで練習への意欲に火がついたのは確かです。

Mr. Hakase grew up in apartment houses built by the Japan Housing Corporation in Tsukumodai and Aoyamadai. His boyhood days in Suita are colorfully filled with the memories of catching insects in a nearby park and visiting the Expo'70 Commemorative Park with his family. He started playing the violin at the age of 4 and practiced vigorously every day, and already aspired to become a professional violinist when he reached junior high school.

コンクールのステージ



青山台中学校の同級生と(左)



団地の窓から見る
太陽の塔は
大いに刺激的だった。



期待が大きく要望が多い分、
作曲は難しい。
だからこそ楽しんで臨む。

クラシックにのめり込む中で見えた
将来めざすべき道

青山台中学校に入学してからも練習、練習の毎日でした。西日本のコンクールに出場して2位になったのも中学生のときで、そのころには「将来は音楽の道へ進む」という自覚がありました。土曜日の午後も音楽の理論やオーケストラについて学びに大阪市内の学校へ通い、同級生が話す歌謡曲の話題には何の関心も示さず、お小遣いで買うのはクラシックレコードばかり。いちばん好きなテレビ番組は「N響アワー」でしたからね。自宅の押し入れの一角を僕のコーナーにしてカセットデッキを持ち込み、ひたすらブラームスを聴き、クラシックの世界に浸っていました。

昨年リリースしたアルバム「Don Sango (ダル・セーニョ)」の副題は「Story of My Life」。これまでの人生

市民のみなさんのイメージや思いを
すべて込めた一曲

僕という人間のベースができたのは、間違いなく吹田に住んでいた時代。吹田は原点といえるまちです。だから、楽曲を作ってほしいと依頼があったときは、とてもうれしかったですね。かっこつけて言うけど、ふるさとに恩返しができるというか。

制作にあたり、最初に80周年事業に取り組むプロジェクト会議の市民のみなさんにお会いしました。そこで「どんな曲にしたいか遠慮せずにどんな要望をください」とお願いしたら、想像していたら割増しぐらいの要望が届きました(笑)。おかげでがぜん、奮起しましたね。みなさんの熱い気持ちに応えたいじゃないですか。

作曲のときは、頭の中でまず映像を描きます。俯瞰でまちを見下ろすようにね。時の経過とともに電車の線路が延び、団地が建設され、まちが発展していく。そこで人々の暮らしと触れ合いが繰り返され、新しくできたサッカースタジアムからは

で影響を受けてきた曲や愛してきた曲の数々をカバーしています。その中に中学時代からずっと愛してやまないブラームスも収録しました。深い世界観を持つ彼の曲はテクニクだけでなく相当な理解力がないと弾きこなせない。50歳を過ぎて弾いてみたいという気持ちがむくむくと沸き上がったんです。吹田の団地の片隅で夢中で聴いていたブラームスを。

歓声が起こり...と、みなさんのイメージする吹田を描き、僕の思いと合わせてメロディーを紡いでいきました。

人口減少など、現代の日本の中には厳しい問題が多々あります。しかし、最近の様子を見聞きしても、吹田はまだまだ可能性や力を秘めている。僕が子供のころ団地で感じていたように、ぜひ、若い世代のみなさんにも夢や希望、自信を持ってほしい。曲にはそんな願いを込めました。

楽曲というのは、「育つ」ものでもありません。子供の成長と同じです。僕の手から離れ、世に出た後は、編曲されたり歌詞が付いたり、一人歩きしながらさまざまに変化し、さらに味わいを増していきます。作曲者としてその成長は大いに喜ばしいこと。ぜひ、新たに制作した吹田の曲もいろいろな場で聴き、演奏し、口ずさみ、みなさんで育ててほしいと思います。



納得するまで続けられる
レコーディング

About the request for a musical piece, Mr. Hakase says: "I see Suita as the starting point of my career. Now I am happy to be doing something in return". The piece was composed by incorporating his encouragement meant for younger generations to embrace their ambitions and confidence here in Suita, where there are infinite possibilities, just as he did back in his day. "I would like for young people to listen to the completed piece under various circumstances, perform the piece themselves, and continue to develop it."

葉加瀬太郎さんが制作した楽曲「Home Suita Home」は市制施行80周年ホームページで聴くことができます。



万博記念公園で行われた「情熱大陸ライブ2017」

